

# 会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

	所管課	福祉課
会議名 (審議会等名)	第1回嬉野市高齢者保健福祉計画策定委員会	
開催日時	令和2年10月22日(木) 14:00～15:00	
開催場所	嬉野庁舎 3-1会議室	
会議の公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 不可 <input type="radio"/> 一部不可	傍聴者数  0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由		
出席者	委員	堤委員、古河委員、坂口委員、近藤委員 船津委員、馬場委員、副島委員、陣内委員
	事務局	副市長（委嘱状交付） 大久保福祉課長、佐熊副課長、富永主査
	その他	
会議の議題	別紙のとおり	
配布資料	資料1：高齢者保健福祉計画について 資料2：嬉野市高齢者保健福祉計画策定スケジュール 資料3：嬉野市の人口・認定者数の将来見通し	
審議等の内容	別紙のとおり	

# 審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	福祉課
議 題	高齢者保健福祉計画に関する各分野の現状		
内 容	事務局より、資料1 高齢者保健福祉計画について、資料2 高齢者保健福祉計画策定スケジュール、資料3 本市の人口推計、高齢者要望等実態調査に基づく高齢を取り巻く状況について の説明を行い、各分野のご意見を伺った。		
審議経過	委員	社会福祉協議会ではトランポリン等介護予防事業を行っており、参加者が非常に多く、開催を増やして欲しいとの要望もあるため、行政でも行って欲しい。	
	事務局	介護予防事業は元気な高齢者を増やすために必要な事業であると考えている。予算との兼ね合いを考えながら検討していきたい。	
	委員	民生委員として月に1回は訪問するよう心掛けているが、高齢者の数が増えたと実感している。覚えられないくらい。デイサービスや施設に行く人もいるが、行きたくないという方も多いため、なるべく高齢者が楽しいと思える事を企画して外に出していきたいと思うが…。地区のお祭り等に誘い出すのも難しい。	
	委員	高齢化率が上がり、地区では催しを行うにしても高齢者中心の企画でないとならぬ人が集まらない。また、区長という立場でも住んでいる人の状況把握が難しいと感じている。	
	委員	自分は佐賀に住んでいるが、嬉野市の高齢者は比較的生き生きしているように見える。しかし、コロナ渦のため地域に出てこられない状況が加速していないか。そのような面からも福祉医療一体化の観点での対策が必要となってくる。コロナ渦からの変化はあるか。このような介護予防のためにできることは？	
委員	いきがいデイもコロナで3ヶ月休んだ。その後通所を開始した時に足腰が弱っている姿を目の当たりにした。本人達からは何より、人と話がしたかったという声が聞かれた。買い物等は家族がしてくれ		

		たが、家にひとりで居ることがつらかったと…。
委員		お喋りをすることが脳のためにも良いと聞く。
委員		一日中家に居るのではなく、朝から起きて着替えて外にでるきっかけができるのは良いこと。
委員		以前は運動会にしても高齢者の席をつくってお招きしたものであったが、最近はそのような取り組みもなく…やはり家から引っ張り出す理由づけが必要。家から出てこない高齢者が増えてきている。
会長		人との関わりの機会づくりが課題となる。医療的な観点から見て課題は？
委員		高齢者のみならず、コロナの問題は全ての世代の課題である。自分達医療従事者も多忙ではあるが、行政側から何か提案を出して欲しい。協力できることには応えていきたい。
委員		月に1回のメンテナンスで通院されていた高齢者でコロナで3～4ヶ月受診されない方も多かった。歯科で感染するような情報もあったためか…。やはり口腔の状態は悪化していた。今は少しずつ出てこられるようになった。
事務局		市の介護予防事業も、万全の対策をとって再開している。待っていたと言われる方も多かった。現在は約8割の方が来られるようになった。
会長		施設に関しては面会を制限する等の対策をとっているが、…。
委員		いきがいデイゆっくらーとは2ヶ月休みにしたあと半数に減らし再開したが、これをきっかけに利用する人が少なくなった。
		計画に関しては、前回の計画と重点は変わらないのか？
事務局		重点がコロコロ変わるのもどうかと考える。変わらない。
委員		高齢化率が高くなっているのに認定率が下がっているのは何故か。
事務局		団塊の世代が高齢となったことで高齢化率は高くなっているが、そ

		の世代はまだまだ元気な方が多い為と考える。
	委員	ぜひ福祉の人材確保についても計画に盛り込んで欲しい。
	事務局	要介護者はサービスを受けなければいけない、しかしサービスを提供する人がいないでは成り立たない。現在国が介護従事者の給料を上げるなど対策をとっているが、それでもなかなか人材確保は難しい。計画にも盛り込んでいきたい。
	委員	今まで嬉野市では転出者が転入者より200人くらい多かったが、コロナの影響かここ1年くらいは転入者、転出者の差はゼロに近い。昨年の秋頃から転入者が多くなってきている。  介護関係の事業所さんを応援できるよう計画に盛り込んでいけたらと思う。
	会長	自助、互助を含め継続するための取り組みが必要。
	委員	(妻が先立つなどして) 男性が一人残ると、なかなか外に出てくるきっかけがない。一人で弱ってしまう前に地域住民による手助けが必要。食改協で活動を行っているが、男性の料理教室等開くと大変喜ばれる。外に出てくるきっかけになれば良いと思う。
	委員	男性の料理教室に参加されている方の年齢層は？
	委員	70代後半の方が多く感じる。
	事務局	市の介護予防教室も98%が女性であり、男性の利用者を増やすことは課題である。
	会長	家から出るきっかけづくりが大事。あれ(目的)があるから出て行こうということをつくっていくこと。
	委員	サービスの利用者の男女比の統計はどうなっているか。デイサービスも男性は1割程度。
	事務局	介護予防事業で言えば、唯一プールは男性も多いが、それでも少ない。ロコモは80人中男性が3~4人。

委員	いきがいデイでも、男性がひとりで参加しているというよりは夫婦で参加し、妻のうしろから夫がついていくというかんじ。
事務局	そう考えると、夫婦で参加する主旨の介護予防教室も良いのかもしれない。
委員	保健と医療の一体化の観点からも、健康寿命を延ばしていくために男性を引っ張り出すための手段を考えることも必要となる。
会長	病院の受診率（男女比）は？
委員	比率はわからないが、やはり女性が元気なイメージ。男性からは寂しいような印象を受けることが多いような気がする。
委員	口腔疾患と認知症の関連がメディアで取り上げられていたが、口腔衛生を保つことが健康寿命を延ばす為に重要なことでは？
委員	そのような研究結果が出ていたが、やはり大事なことは、継続して予防をしていくこと。痛い時にしか来ない人も依然として多い。歯科の方でもリハビリを導入する動きがでてきている。現場のスタッフも勉強中であるが。
委員	言語聴覚士の関わりなども？
委員	もちろん重要である。
委員	施設でも肺炎で亡くなる方は多く、嚥下力等の口腔機能を向上させる取り組みの必要性を感じている。これは在宅の高齢者についても取り組む必要があると考える。
事務局	口腔機能維持向上については元気なうちから考え、取り組んで欲しい課題であると考えているが、老人会等に講話等を勧めても、歯の話はいいと遠慮されることが多い。嬉野市の歯科Drも皆さん協力的ではあるが…。体操はしたいが、歯のことはいい（遠慮する）と言われる…。このことについては今後考えていけたらと思う。
委員	歯自体だけではなく、手の機能が低下し、動かせなくなり、歯磨きができない等身体機能の低下とも密接に関わってくる。

委員	<p>第2章 1ページの棒グラフが4区分になっている。普通は3区分ではないのか。敢えて生産年齢人口を分けているのは何故か。</p> <p>また、13ページの介護者でフルタイムで働いている方が多いのは、施設に預けている人も入っているのでは？</p> <p>(前回の計画の)7ページで、団塊ジュニア世代という表記があるが・・・(今回はない)。わざわざ表記していたのは何故か。</p>
事務局	<p>4区分の理由は不明。業者に確認し、次回会議で報告する。</p> <p>施設に預けている人は入っていない。嬉野市は介護をしながら働いている方が多い。</p> <p>団塊ジュニア世代が65歳を迎える時期に、高齢化問題が社会保障面で新たな局面を迎えるといわれていることから、表記している。</p>
委員	<p>では今回も色分けした方が良いでしょう。</p>
事務局	<p>在宅サービスでケアマネさんが関わっていることであがってくる問題等はないか。</p>
委員	<p>3年前に包括の委託を受けたが、当事業所が受け持っている地域は温泉街で困難なケースが多い。単に人口だけで分けるのは・・・。</p> <p>居宅関係では、家族の要望もレベルが高くなってきており、可能な範囲で対応はするが、できないことはできないと伝えることが必要になってきた。</p> <p>また、嬉野市は宅老所の数が非常に多い。特養に入所できない方の受け皿は多いと感じる。宅老所は夜の泊まりの部分は自由に料金を設定できる。しかし特養の料金は定められており、施設基準は人員規定や廊下の広さに至るまで細かく定められている。職員を研修に派遣するなどして介護の質を高めて待っていても、利用してもらえないこともある。そういう意味でバランスはどうかと思う。利用者の確保に関しても限界がある。そのような意味で公平性や、介護の質が下がるのはどうなのか。</p>
事務局	<p>今後、課題として考えていきたい。</p>

